

## JICA 教師研修 学習指導案

### 【実践者】

氏名	山岸 洋一	学校名	私立大森学園高等学校
担当教科等	地歴公民科	対象学年 (人数)	1年普通科1組 (13名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2022年9月 ~ 11月 (10時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：公共 現代社会の諸課題		
2. 単元名：転生したら多民族国家の首長だった件について～多民族国家経営シュミレーション～		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：調べ学習・ポスターセッションを通じた「多文化」・「他文化」理解 単元目標：「民族」「国家」の違いに出会い、違いの中でどう生きるかを考える。  関連する学習指導要領上の目標： (1) 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。(「公共」の目標)		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国家」の中の「民族」という概念を理解できたか。</li> <li>・自分が調べた多民族国家の概観への理解を深めたか。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家経営シュミレーションの中でどのような情報が必要かを自分で考え、ポスター作製の際に適切な取捨選択 (編集) が出来たか。</li> <li>・ポスターセッションの際に、聴き手を意識した表現が出来たか。</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家経営シュミレーションの中で、国家経営や多民族国家で生きることを自分事として捉えることが出来たか。</li> <li>・ポスターセッションの聴き手として、1つでも学ぼうとする意識を持ったか。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>「公共」という他人の集まる空間について考える科目を扱う際の具体例として、大きな公共空間である「多民族国家」が適切ではないかと考えた。他国の文化を知る際に座学だけでは教授できる情報に限界がある為、各個人の調べ学習・ポスターセッションを通じたプレゼンにより多くの国家について触れる機会が設けられると考えた。タイトルに関しては生徒への伝わり方、インパクトを考え設定した。転生 (生まれ変わる) という言葉で、「あなただったらどうする?」というイメージを与え、少しでも国家とのかかわり方の自分事化を図ろうと考えている。様々ご意見はあると考えるが「真面目にふざける (楽しむ)」を本実践者がモットーとしている為、許して頂ければ幸いである。</p> <p>また、JICA 東京による夏季教員研修のテーマの1つであった「多文化共生」への取り組みに感化され本単元を設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>外国人労働者の受け入れには積極的である一方で、難民受け入れのハードルの高いねじれを持つ日本の中で生き学ぶ中で、様々な民族が共存・共生している国家を調べ思考することで、生徒の視野が広がるのではないかと考えた。</p> <p>また、生徒ごとに調べる国家を変えポスターセッションを行うことで他人の脳を借り、1人で調べるよりも新しい知識を得られるはずである。</p>	

	<p>【児童／生徒観】</p> <p>本校1年普通科1組は国立コースとして設定されている。進学・学習・教養に対して他クラスと比べ前向きである。担任や各科目の教員がグループワークやプレゼン等の実践を多く行われており、表現力もある程度養成されている。</p> <p>【指導観】</p> <p>1学期では科目の特性である「公共」という空間について知り、考えた。SDGsという概念には触れており、夏期課題ではSDGsに関する壁新聞、2学期ではSDGsに関連するおすすめ本を選び本の帯を作成した。</p> <p>次単元で取り上げる日本への考え方を深める為に、他国の視点を理解させたい。</p> <p>また、本校の中で一番高い偏差値帯である国立コースという点も鑑みて、ポスターセッションと通した表現力や、「もし首長だったら…」という視点を持った調べ学習からリーダーシップの養成を図りたいと考える。</p>
--	--

## 6. 単元計画（全9時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 ～ 2	研修報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本実践者の研修報告を通して、「多文化共生」という概念や国内の実践者を知る。</li> <li>・「スタディツアー」という切り口の旅行があることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「講演会をどう聴くか」という設定で、自分なりの聴講メモノートを作成する。</li> <li>・質問や自分の気づき等もメモをとる。</li> <li>・国内の旅行会社にある「スタディツアー」探し、概要をまとめる。</li> </ul>	研修先で撮影した写真を利用したスライド (keynote)
3	政治学の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家や人権等の政治学の基礎を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用ワークシートを用いながら、必要なメモをとる。</li> </ul>	本実践者作成プリント
4	国家を持たない民族を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人種・民族・国籍の違いを理解する。</li> <li>・クルド人の現状を知る。</li> <li>・前単元の人権保障が当たり前ではないことを知る。</li> <li>・多民族国家である国を調べることで、多民族国家の多さに生徒自身で気が付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義用ワークシート作成で概要を知る。</li> <li>・多民族国家を自分で調べる。</li> </ul>	本実践者作成プリント 公共教科書(教育図書) 本実践者作成プリント JIIAHP 『日本で生きるクルド人』 鶴沢哲雄
5	多民族国家カナダを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多民族国家の在り方を理解する。</li> <li>・カナダの多民族共生政策の概要を知る。</li> <li>・後に自分たちでも調べ学習をすることを意識する機会とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人種のるつぼ」と「サラダボウル」の違いなど、多民族国家に関するキーワードを調べ、まとめる。</li> <li>・多民族共生の問題点・対策を想像し、グループでアイデアを出し合う。</li> <li>・実際の対策を知り、問題点がないかを考える。</li> </ul>	本実践者作成プリント カナダ大使館HP

6	調べ学習ガイド ンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の概要・ルール設定などを理解する。</li> <li>・ルール設定のブラッシュアップにも生徒が参加することで、本単元を自分事と意識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人、各グループで本単元での意義や問題点を考え、生徒間、教師間でブラッシュアップを行う。</li> </ul>	本実践者作成プリント
7 ～ 9	「転生したら多民族国家の首長だった件について」 調べ学習・ポスター作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習により担当国家の概要を知り、理解を深める</li> <li>・情報収集力、編集力・表現力を鍛えながら、1つの作品を作り終えた経験を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が取り上げる多民族国家を決める。</li> <li>・図書室の本や iPad を利用し、情報を集め、編集する</li> <li>・ポスターを作成</li> <li>・プレゼン内容を考える。</li> </ul>	模造紙・各種文房具 iPad など情報収集が可能なもの
10 本時	ポスターセッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッションによるプレゼンで自分の表現力を知る。</li> <li>・他人のプレゼンを聴くことで知識の幅を広げたり、表現方法のヒントを得たりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッションプレゼン、他人のプレゼンの評価</li> <li>・調べ学習、ポスターセッションのフィードバック、まとめ</li> </ul>	

### 7. 本時の展開（10時間目）

本時のねらい

- (1) ポスターセッションにおけるプレゼンを通して、自分がどこまで理解し表現出来たかを知る。
- (2) いくつかのプレゼンを聴くことで多民族国家に関する知識を増やし、深める。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①挨拶、点呼</li> <li>②ルール、本時の流れの確認</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者は相手がいることを意識すること、聴講者は質問を考えながら聴くことを伝える。</li> <li>・失敗しても仲間同士で助け合う空間を作ることを伝える。</li> </ul>	本実践者作成 keynote 評価シート

<p>展開 (35分)</p>	<p>① クラスを A～F 6 班に分け、ABC はプレゼン班、DEF は聴講班となる、</p> <p>② プレゼン班は教室 3 か所のプレゼンブースに自分のポスターを貼り準備。</p> <p>③ 聴講班は各プレゼンブースへ移動、聴講。各ブース 3 分半でプレゼン、質問。次のブースへ移動…を繰り返す。</p> <p>④ ブースへの移動の時間に評価シート入力時間を作る。</p> <p>⑤ セッション 2、ABC が聴講班、DEF がプレゼン班としてプレゼン・聴講を行う。</p>	<p>・プレゼンごとに前向きな声掛けを行うこと</p> <p>・スムーズな流れになるように促すこと</p> <p>・設定時間は動きを見ながら微調整する。</p>	<p>ポスターセッションの動き、流れを keynote で表示する。</p> <p>聴講者は Google フォームの評価シートを入力しながら聴講する</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>・まとめフィードバックシートの記入</p>	<p>・個人のフィードバックは次回までの課題とする</p> <p>・見学者がいれば、一言感想を頂く。</p>	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・知識及び技能：定期試験で出題、基本的知識をもったかを確認する。
- ・思考力、判断力、表現力：作成したポスター・プレゼンが聴講者を意識しているか、ルールの範囲内で作成されているか。
- ・学びに向かう力、人間性：ポスター作成時の動き、締め切りを守れるか。  
フィードバック用のワークシート作成


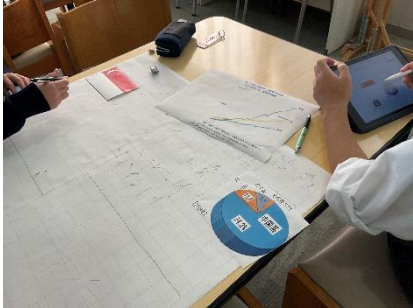
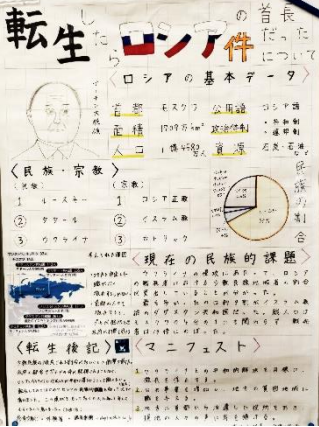

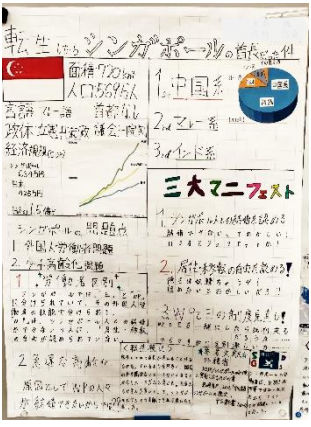
9. 学習方法及び外部との連携

- ・学習方法
  - ① 座学とグループワークの切り替え、目的等を分かりやすく伝える。
  - ② 教室は間違える場所、何を話してもいい場所であることを強調し心理的安全性を高める。
  - ③ 各座学の授業を本実践者のプレゼンだとし、ポスター作成、プレゼン方法のヒントを与える。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・職員会議での本実践者の研修報告
- ・学年集会での本クラスでの実践報告（来学期検討中）
- ・夏期課題（壁新聞）や SDGs おすすめ本の帯づくり、本時発表のポスター掲示により他生徒の目に触れる様にする。
- ・校内における本時研究授業

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校作成シラバスとどこまで結びつけるか。・予備知識をどこまで教授するかを取捨選択。</li> <li>・調べた情報の羅列にならずに、どう自分事に近づけるか（故に自分が経営するなら…というシミュレーション形式とした。）</li> <li>・「あなたならどうする？」というアイデアを出すための、方法論をどこまで教授するか。</li> <li>・2人1組でのポスター作成となった為、生徒間の能力差やコミュニケーションを円滑に進めるための声掛けをどこまですべきか。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時までの単元計画に内容を詰め込み過ぎた。</li> <li>・事前学習で私からの講義だけではなく、当事者からの出前授業等を計画すべきだった様に思う。</li> <li>・時間割の都合上実施できなかったが、他クラスや他学年から聴講者を出したかった。多文化共生・多民族国家の授業であるのに、内向きな実践であったように感じる。</li> <li>・年間を通した計画、科目・教科全体での計画、学年や学校全体を巻き込んだ計画と少しずつ規模を大きくできたらと考える。</li> </ul>
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多民族国家」「難民」などの関連用語が実践クラス内での共通語となった。</li> <li>・国家経営の簡単なシミュレーションをした為、政治分野へ興味関心を高められた様に感じる。</li> <li>・ペアでのポスター作成により普段コミュニケーションをあまりとらない生徒同士がアイデアを出し合う姿が見られた。</li> <li>・研究授業後、ポスター掲示後に興味をもってくれる教員等からお声掛け頂く機会が増えた。</li> </ul>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>・iPad のノートアプリでレイアウトやデザインの下書きをする生徒や、締め切りを最重要視しすぐに模造紙での作業を始める生徒もいた。各ペアの個性を把握できる側面もあった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・生徒作成ポスターの一部抜粋</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

	<p>【実践後の生徒の感想抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少数民族に対する考え、批判を受けても少数民族ならどうにかなるかなと思われてしまうところが難しいと思った。果たして意識しようとしてその考えは変わるのか。</li> <li>・どの国も差別に関する問題があり、少数民族への差別をなくすことは難しい。</li> </ul> <p>▷多民族国家の経営の問題点や困難さは実感できたような感想が多かった。その先の共生への具体策や他国の成功例、研究事例等の紹介・検索までに至る時間が足りなかったように感じる。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>SDGs や多文化共生などの用語は勿論知っており授業でも取り上げてはいたが、どこか教科書・ネットの世界の中の話…という付き合い方であった。それが授業中でも自分自身の違和感となり、生徒への伝わり方も弱かった原因の1つであった様に感じる。それを少しでも変えたいという動機で国内研修に参加した。研修参加後興味関心のアンテナが増え、百聞は一見に如かずという言葉の本質を知った。研修期間中の様々なキーワードが授業をつくる際の切り口の1つとなり助かっている。この学びを私だけのものでも終わらせず、あらゆる切り口を生徒のものにするために（ポスターセッションという形が本当に正しかったのかも含め、）何が必要かを考え実践していきたい。最後にこの研修や実践の機会を下さった JICA の担当者の方々や研修に協力して下さった各地の方々、実践に協力してくれた本校生徒・教職員、この報告書に目を通して頂いているあなたに感謝の意を表したい。どこかで恩返しが出来たらと考えている。</p>

使用した教科書・単元名：高等学校 公共 現代社会の諸課題

参考資料：JICA・JIIA・外務省HP等